



てき丸君News 第12号

発行：公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目1番17号

TEL 03-3224-0811

FAX 03-3224-0820

<http://www.zensanpairen.or.jp>

「平成26年度全国正会員会長・理事長会議」静岡市で開催

当連合会は、平成26年度全国正会員会長・理事長会議を2月27日に静岡市のホテルセンチュリー静岡にて開催しました。

会議では、石井会長の挨拶、出席者の紹介が行われたあと議事に移り、「平成27年度事業運営概要について」として①平成27年度連合会事業計画骨子案、②電子マニフェスト運用支援事業、③低炭素社会実行計画案、の各議題が説明されました。

また、議事の終了後は、産業廃棄物処理業の振興策を検討しているタスクフォースの活動状況について加藤三郎タスクフォース座長より報告されたほか、「産業廃棄物行政の現状と今後の方向性について」と題して来賓の角倉一郎環境省産業廃棄物課長による講演が行われました。



●政治連盟第13回代議員会も開催●

全国産業廃棄物連合会政治連盟は、連合会の平成26年度全国正会員会長・理事長会議の開催にあわせて代議員会を同会場で行いました。代議員会では、第1号議案「平成26年度活動報告並びに決算(案)・監査報告」、第2号議案「平成27年度活動計画(案)並びに予算(案)」、第3号議案「代議員の選出」の各議案が承認されました。これらの議案のうち代議員の選出については、次の方々が代議員に選任されました。

○九州地区：長崎県 一般社団法人長崎県産業廃棄物協会会長 海野 博 氏

○近畿地区：京都府 公益社団法人京都府産業廃棄物協会会長 田端 俊三 氏

(総務部・古川)

委員会・部会便り

●総務倫理委員会●

平成26年度第1回総務倫理委員会を2月3日に開催しました。今回の委員会では、平成27年度事業計画、正会員会員の不適正処理及び安全衛生不適正事案への対応、社団法人化30周年のあり方等を議論しました。(総務部・富樫)

●収集運搬部会●

収集運搬部会は、平成26年度第3回運営委員会を平成27年2月18日に開催しました。

委員会では、産業廃棄物処理業における欠格要件の在り方や許可業者がレンタカーで廃棄物を運搬する場合の自治体の運用・解釈について、意見交換を行いました。

欠格要件については、欠格要件が適用される役員等の範囲に、5%以上の貸金者・株主・出資者、いわゆる「5%ルール」を適用することは業の発展を図る上での障害となり得るとし、見直しの検討を進めていくこととしました。(調査部・戒能)

青年部協議会「スプリングカンファレンス2015」を開催

全国産業廃棄物連合会青年部協議会は、第5回全国青年部会長会議（スプリングカンファレンス2015）を2月5日に沖縄県那覇市にて開催しました。

今回のカンファレンスでは今までのカンファレンスとは違い、全国の会長の皆様を6つのグループにシャッフルさせて頂き、コーディネーター役として青年部協議会の幹事の皆様に各テーブルについて頂き、グループディスカッション、プレゼンテーションというスタイルで開催しました。

議題としましては、第9回全国大会の検証、CSR2プロジェクト継承と進化の検証、次年度以降の全体事業の方向性協議、各都道府県の問題点検証と4つのテーマにて行いました。各テーブルとも白熱した議論で各地の想いや考え方等、青年部らしく正直な気持ちをぶつけ合いあつという間の4時間でした。

次年度以降、CSR活動は継続していこうという前向きな意見で、4月以降の幹事会での皆様の意見を参考に事業計画を立てさせて頂きます。

また懇親会では沖縄らしい郷土料理が並び、沖縄県産業廃棄物協会安里会長様、坪井副会長様、沖縄県環境部比嘉様、那覇市環境部来間様、新垣様にもお越し頂き大変ありがとうございました。

最後になりますが、この2年間スプリングカンファレンスを担当頂きました木村副会長、本当にお疲れ様でした。また、4回目の沖縄での開催ということで、前田会長をはじめとします沖縄県青年部の皆様、本当にお世話になりました。心より感謝申し上げます。
(青年部協議会・加山さん)



官公庁関係ニュース

●災害廃棄物対策の動向●

環境省の「巨大地震発生時における災害廃棄物対策検討委員会」の第4回目の会議が、2月3日にステーションカンファレンス東京で開催されました。今回の委員会では、災害廃棄物対策について同省が今通常国会に提案予定の法案のベースとなる「巨大地震発生時における災害廃棄物に係る対策スキームについて」が検討されました。同スキームは、6日に開催された第8回中央環境審議会循環型社会部会において検討会の酒井委員長により報告された後、パブリックコメントが実施されました。パブリックコメントには、当連合会も意見を提出しています（1月29日に環境省へ提出した意見書と同じ内容。意見書提出のようは前回発行の「てき丸君News第11号」に掲載）。当連合会意見書、環境省の検討委員会の状況及びパブリックコメントの結果等の詳細は下記のURLをご覧ください。

- ・当連合会意見書 <http://www.zensanpairen.or.jp/federation/O2/index.html>
- ・環境省検討委員会 <http://www.env.go.jp/recycle/waste/disaster/earthquake/conf01.html>
- ・パブコメ結果 <http://www.env.go.jp/press/100467.html>

(総務部・古川)

●カドミウム処理基準等の見直しについて●

中央環境審議会循環型社会部会廃棄物処理基準等専門委員会の第8回専門委員会（2月4日）にて「廃棄物処理基準等専門委員会報告書（廃棄物処理法に基づく廃棄物最終処分場からの放流水の排水基準、特別管理産業廃棄物の判定基準等に関する検討（カドミウム））（案）」の最終取りまとめがなされました。

本報告書は平成27年2月10日から平成27年3月11日までの間、パブリックコメントを実施中です。

<https://www.env.go.jp/press/100342.html>

(調査部・日浦)

●水俣条約対応技術的事項検討会●

平成26年度第1回水俣条約対応技術的事項検討会（2月23日）が行われました。本検討会は水俣条約の批准に向け、新法に基づく政省令の規定内容に係る技術的事項を検討することが目的です。

条約締結時に必要な事項を優先的に検討していくこととなっており、主として水銀添加製品関連、水銀等の暫定的保管関連、水銀廃棄物（※廃棄物処理法上の廃棄物を除く）関連等について検討を行うことになっています。第2回検討会は3月27日に開催予定です。

(調査部・福田)

水銀廃棄物セミナー・大阪会場開催報告



当連合会の主催による「水銀廃棄物セミナー大阪会場」を2月6日、大阪市内の梅田スカイビルタワーウェストにおいて開催し、西日本を中心に産業廃棄物処理業者など約80名が参加されました。

講演に先立って、当連合会の森谷専務理事が、「わが国の水俣条約の批准により水銀廃棄物の処理体系が大きく変更される予定であり、現在、環境省において新法の設立や大気汚染防止法改正のための作業が行われている状況だ。本セミナーでは、水銀廃棄物に関して知見が豊富な先生方にご講演いただくので、しっかり話を聞いて今後の事業の参考にして頂きたい」旨の開会挨拶を述べました。

セミナーでは、まず、環境省廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課課長補佐の鈴木あや子氏から「水銀に関する水俣条約を踏まえた今後の水銀廃棄物対策について」と題し、水俣条約の内容や国内対策、廃金属水銀、水銀汚染物及び水銀添加廃製品の処理状況や課題、処理の在り方などについてご講演頂きました。

次に、京都大学大学院工学研究科教授の高岡昌輝氏から、「水銀廃棄物の処理について～その課題とポイント～」についてご講演頂きました。高岡氏からは、水銀の環境中での挙動や水銀廃棄物の処理方法と今後の課題について詳しい説明がありました。

休憩をはさんで、野村興産株式会社代表取締役社長の藤原悌氏より「水俣条約を踏まえた水銀リサイクルの今後について」と題してご講演頂きました。藤原氏は、今後の検討課題として水銀安定・固形化処理処分方法、処理処分費用負担、処理処分運用・管理体制の構築や水俣条約による追加措置後の水銀廃棄物処理費のイメージについても言及されました。

最後に、当連合会最終処分部会運営委員の檜垣光次氏から「水銀廃棄物の埋立処分の課題」と題してご講演頂きました。檜垣氏は、水銀廃棄物の埋立方法のほか、過去の事例を紹介しながら今後の水銀廃棄物の埋立費用や検討課題について説明しました。その後、セミナー参加者からの質疑応答を行い、森谷専務理事の開会の挨拶のあと終了しました。
(事業部・東方)

●INDUST 3月号特集「いよいよ動き出す水銀廃棄物対策」●

2016年に「水銀に関する水俣条約」が発効される見通しとなっています。環境省では、水銀廃棄物の環境上適正な処理のあり方について来年度中央環境審議会において審議し、2015年に所要の制度改正を行うことを予定しています。

水俣条約では、水銀または水銀化合物を使用する製造工程や水銀添加製品の製造を段階的に制限することが規定されていることから、今後、リサイクルされずに廃棄物となる水銀もあり、これら水銀廃棄物や廃金属水銀を環境上適正に処理することが求められます。

水銀廃棄物の処理ニーズが将来高まることが予想される中、今後産業廃棄物処理業者は新たな環境規制などへの対応が迫られることとなりますが、適正処理やリサイクルの分野でのビジネスチャンスとしての可能性もでてきます。産業廃棄物処理業者としてどのような対応が必要かを特集します。

(事業部・東方)

- 主な行事予定 - (3月9日～4月11日)

【3月】

- 9日 許可講習会事務取扱説明会
- 10日 第23回理事会
- 11日 第97回青年部協議会幹事会
- 17日 第8回タスクフォース会合

- 20日 海外展開セミナー(東京)
- 27日 第3回処分場早期安定化分科会

【4月】

- 3日 平成27年度第1回法制度対策委員会
- 9日 許可講習会講師研修会(2日間、横浜)